

 半田中央病院情報誌

半田中央病院 だより



半田中央病院より 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。
2024年も職員一丸となって、患者様や家族に寄り添った医療を提供し、地域の生活拠点病院としても、住民の皆様と関わっていかませよう努力を重ねてまいりたいと思います。



半田市の市民講座で在宅医療に関して 講演させていただきました!

こんにちは、在宅医療センターです。2023年12月15日に半田市在宅医療・介護サポートセンターからご依頼いただき、一般市民の方々を対象に在宅医療に関してお話させていただきました。この講座は「考えよう、話そう 私の人生会議」というテーマで、住み慣れた場所で最期まで自分らしい生活を送るために、自分にとって最善の選択は何かを考え、決定するためのヒントを医療・介護・司法に関わる専門職が計3回に渡ってお伝えするという趣旨の会です。第1回を半田市立半田病院、第2回を知多地域権利擁護支援センター、そして第3回を当院が担当しました。第3回は「地域を支える在宅医療」という内容で、前半は在宅医療とは何か、どんな人が対象となるのか、実際にどういう検査・治療ができるのかという話をさせていただきました。後半では在宅医療センター看護師の池谷さん、相談員の伊藤さん、訪問看護ステーションコスモス看護師の福崎さん、看護小規模多機能ホーム有脇ケアマネージャーの沢井さんと5人で登壇し、実際の患者さんを具体例として挙げながらディスカッションを行いました。在宅医療はトピックということもあり、当日はこれまでで一番多い40人を超える一般市民の方に参加していただきました。質疑応答の時間では「いま通っているクリニックから在宅診療に紹介してもらうにはどうしたらいいのか」「いまは元気だけど、将来動けなくなったときにどうやったらスムーズに在宅医療を受けられるのか」「費用はどれくらいかかるのか」など非常に多くの質問をいただき、市民の方々の関心の高さが伺えました。この会で講演させてもらったことにより、市民の方に在宅医療とは何か知ってもらったことに加え、半田中央病院をより多くの人に知ってもらえたい機会になったと思っています。

また、普段我々は患者様のご自宅に伺って診療させてもらっていますが、半田中央病院は非常に評判がよく「リハビリするなら絶対半田中央病院がいい」という声をよく耳にします。こういった声が聞けるのは職員の皆様の普段のがんばりのおかげだと思っています。これからもみんなでがんばって半田中央病院を盛り上げていきましょう。今年も1年よろしくお願います!

在宅医療センター長 総合診療医 城代康貴



上肢機能訓練のための最新の ロボットリハビリ機器を導入しました

今回、リハビリテーション部より、ロボットリハビリテーション機器のご紹介をさせていただきます。近年、ロボットを用いたリハビリテーションの報告は増えています。リハビリテーションで使用するロボットには、「介護支援ロボット」と「訓練支援ロボット」の二つに分けることができます。今回、ご紹介するのは、訓練支援ロボットである「フィンガーリハビリテーションシステムEsoGLOVE(イーエスオーグローブ)」という上肢(手)機能訓練機器です。主に、脳卒中など中枢神経疾患による運動麻痺を呈した上肢(手)運動機能を回復支援するロボットリハビリテーション機器です。脳卒中治療ガイドラインでも、ロボットを用いた上肢(手)機能訓練を行うことは妥当であるとも記載されています。2023年1月、半田中央病院リハビリテーション部に導入された時には、愛知県初の導入施設となりました。病気や外傷により引き起こされた障害に対して、ロボットリハビリテーションを一つの手段として、患者様・利用者様の機能回復と自立性を高め、生活再建の力になれるよう活用を始めたところです。

■リハビリテーションシステムEsoGLOVE (イーエスオーグローブ)とは

・空気圧を用いたロボティックグローブ(写真①)を装着して、手指のリハビリテーションを行い、手指の運動機能回復を支援します。



写真① EsoGLOVE ロボティックグローブ装着時

■特 色

・様々な運動モード

EsoGLOVEは、運動麻痺の程度や手指の状態に合わせて、使用が可能です。例えば、指の曲げ伸ばし運動の強度やスピード、難易度などの調整ができます。また、部分的に指を動かすことが可能な場合は、必要な部分のみアシストするアクティブアシティブ運動モードがあり、より効果的な訓練を提供できます。

・フィードバック機能(運動と視覚効果の同期)

EsoGLOVEは、手指を動かすリハビリテーションだけでなく、パソコンと接続することで、運動モードにあわせた映像をパソコン画面上で実際の運動と連動して表示するため、フィードバック機能(写真②)として脳神経可塑性の刺激を与え、脳の活性化を高めることが期待されます。



写真② 実際の訓練場面:運動と視覚効果の同期

今後、訓練適応のある患者様・利用者様にたくさん利用して頂き、評価(検査・測定)結果のデータ分析・解析をして、より質の高いリハビリテーションを提供できるようリハビリテーション部では、日々努力してまいります。

リハビリテーション部 OT 西田健二

院内勉強会

今年度も各委員会による勉強会を開催しています。

6月 医療安全管理委員会

7月 感染対策委員会

9月 気管切開カニューレの取り扱い

10月 症例検討会

各部門、多職種にわたり参加がありました。職員の知識の幅が広げ医療の質の向上につながる時間となっています。



◆当院における事故定義

インシデントとは、
患者に実害を及ぼすことはなかったが、日常でセマリしたり、ハツしたりした事象。もう少しで事故に至るであろう危険が感じられたこと。
ex)事故が起ころうな状況に前もって気付いた事例。
誤った措置が実施される前に気づいた事例。

アクシデントとは、
事の大小や過失の有無を問わず、よくない結果が患者に発生した事象。
微小な擦り傷～死亡に至るまで、何らかの影響を生じたもの全て対象とする。
また、当院では「事故のレベル」をレベル0～5までの5段階を下記のように定義し、レベル0～1をインシデントとし、レベル2～5をアクシデントとしている。

医療安全委員会勉強会

**感染対策委員会勉強会
手洗い・ごみ分別について**

企画：感染対策委員会
令和5年7月21日（金）

感染対策委員会勉強会

自立した生活へ戻るための支援
～妻と行くジョイフルへの道～

PT角川 OT吉川 ST藤田 NS小坂 連携室平松

症例検討会(10月)

医療法人 メディライフ 半田中央病院

〒475-0017 愛知県半田市有脇町13-101

TEL.(0569) 20-2210 FAX.(0569) 20-2212

診療時間：月～土（祝日を除く）9:00～12:00（受付は8:30から）

診療科目：内科・小児科・リハビリテーション科・脳神経外科・整形外科
回復期連携室

TEL.(0569) 20-2208 FAX.(0569) 20-2209

【併設事業所】

半田中央病院 在宅医療センター

TEL.(0569) 84-2230 FAX.(0569) 84-2237

デイリハビリセンター

TEL.(0569) 20-2217 FAX.(0569) 20-2237



<http://www.medi-life.jp>

